

令和元年12月6日

保護者の皆様

中野区立桃園第二小学校
校長 山崎 義弘

家庭学習推進旬間にご協力ください

師走の候 皆様におかれましては、ますますご健勝のことと存じます。

確かな学力を身につけるためには、学校での学習に加え、家庭学習が重要であると言われています。学校での学習を復習したり、自分を関心や疑問を抱いたことについて調べたりすることを通して、基礎的・基本的な知識が定着するとともに、思考力が向上すると考えます。学習する習慣を築くうえでも、毎日決めた時刻に決まった時間、継続して学習に取り組むことは重要です。

本日12月6日(金)から12月14日(土)までを、今年度2回目の家庭学習推進旬間とさせていただきます。子どもたちが、家庭学習に力を入れて取り組むよう、学校で働きかけていきます。ご家庭でも、子どもたちを励ましていただけますようお願いいたします。家庭学習を進める際に、次のようなことがよいと言われています。参考にいただき、子どもたちの学習が充実することを願っています。

小学生の家庭学習時間の目安は

時間の目安は、「15分×学年数」または「宿題以外に10分×学年数」と言われます。

1年生…15分(宿題以外に10分)	2年生…30分(宿題以外に20分)	低学年10~20分程度
3年生…45分(宿題以外に30分)	4年生…60分(宿題以外に40分)	中学年30~40分程度
5年生…75分(宿題以外に50分)	6年生…90分(宿題以外に60分)	高学年50~60分程度

毎日同じ時間に

上記の時間が、1日のうちのいつなのかを決めることが大切です。毎日違うと、習慣になりにくくなってしまいます。「毎日同じ」というほうが気持ちが安定するお子さんが多くいます。

例) ○学校から帰ってすぐの時間 ○習いごとに出かける前 ○朝起きて朝食の前 など

できれば…次のことも

保護者の皆様もお仕事等でご多用のことと思います。できる範囲で結構です。

家の人にそばにいていただく

家の人の方がそばにいてくださると子どもたちは安心して学習します。自分の部屋で一人で学習するより、居間・リビングや台所・キッチンのそばなど、家の人がいるところで行うほうが頑張れる子どもがいます。

家の人に学校のことを聞いていただく

保護者や家の人に、学校での出来事や学んだことを聞いていただけると、子どもたちは学習内容を振り返ることができます。東京都の調査によると、「家の人と学校の出来事について話をしている」子どもほど学力調査の正答率が高い傾向にあったそうです。

家庭学習の手引き

中野区教育委員会では、家庭で身に付ける学習習慣が学力を支える基盤となるとの考えから、本リーフレットを作成いたしました。学校と家庭が連携しながら子どもたちに学力の定着を図るため、本リーフレットをご活用ください。

自ら学ぶ子どもを育てる

なぜ家庭学習が大切なのでしょう？

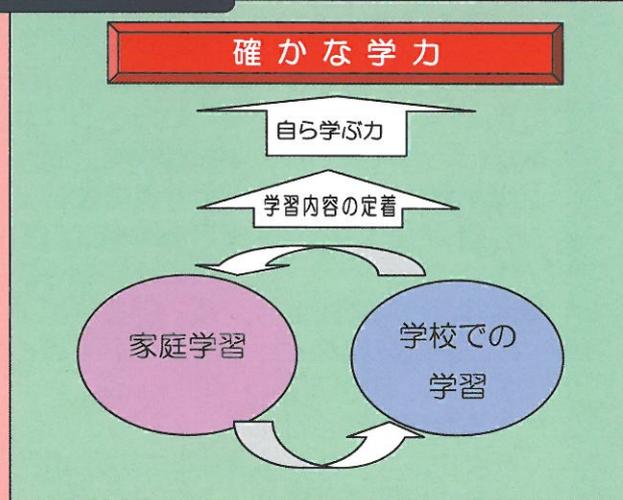
小・中学校での学習は、子どもたちが将来社会人として自立するために必要な自ら学ぶ力を育てます。

全国学力・学習状況調査の結果からは、家庭学習をしない子どもに比べ、家庭学習をしている子どもの方が、正答率が高いという傾向が見られます。

家庭学習が学校の学習の支えとなり、子どもたちに確かな学力が育まれるのです。

家庭学習の効果

- ・学校で学習した内容が、より確かに身に付きます。
- ・自ら学ぶ力が身に付きます。



家庭学習の進め方

家庭学習を習慣化させるために、子どもと話し合い、家庭学習の進め方について学年に応じたルールを決めましょう。

①まず学校の宿題に取り組みせましょう。

取り組んだことを認め、子どもをほめましょう。

②自主学習に取り組ませましょう。

宿題が終わったら、自主学習に取り組ませるなど自ら学ぶ姿勢を育てましょう。

③次の日の準備を必ずさせましょう。

学習に必要な物を自分で準備させることで、学習への意識が高まります。

やる気がでる魔法の声かけ

- ・よくできたね
- ・きれいに書けたね
- ・これもできそうだね
- ・がんばってるね

家庭学習のポイント

学習習慣を身に付けさせ、家庭学習を進めるためには、帰宅後の生活にリズムをつくり、その中で学習の時間（決まった時間）と学習の場をつくるのが大切です。

帰宅後の計画を子ども自身に立てさせましょう

宿題と自主学習をどこに位置付けるとよいか、お子さんと一緒に考えてみましょう。

例	帰宅 4時	宿題 4時30分～5時30分	夕食 7時～8時	自主学習 8時～9時30分	入浴 9時30分から10時	就寝 10時
【あなたの場合】 線を書き加えて帰宅後の計画を作りましょう。						
	帰宅 ()時					就寝

家庭学習は毎日継続することが大切です。無理のない時間から始めて習慣づけ、徐々に目安となる時間に近づけていきましょう。



各学年の家庭学習例

	学習の特徴	ポイント	取り組みたい家庭学習
小学校	低学年	<ul style="list-style-type: none"> ★毎日学習する習慣をつけましょう。 ★学習習慣・基本的な生活習慣を確立させましょう。 ★家の手伝いや自分で学習の準備をする習慣をつけましょう。 ★取り組み時間の目安 10分～20分程度 	<ul style="list-style-type: none"> 【国語】 ○鉛筆を正しく持ち、書き順に気を付けて文字を丁寧に書く。 ○姿勢や口の形、速さに気を付けて、大きな声で音読する。 【算数】 ○たし算やひき算、かけ算の問題を解く。 ○書いたり唱えたりしながら九九の練習をする。 【その他】 ○いろいろな読み物をたくさん読む。
	中学年	<ul style="list-style-type: none"> ★自ら学習に向かう意欲を育てましょう。 ★宿題の他に自主学習に取り組みせましょう。自主学習ノート等を用意するとよいでしょう。 ★取り組み時間の目安 30分～40分程度 	<ul style="list-style-type: none"> 【国語】 ○書き順、読み、送り仮名に注意して漢字を練習する。 ○国語辞典や漢字辞典を使い、言葉の意味を調べたり、その言葉を使って文章を作ったりする。 【算数】 ○早く、正確に解けるように、計算練習をする。 ○料理で使う水の量や肉の量を比べたり測ったりするなど、長さ、かさ、重さの単位を生活と結び付けて理解できるようにする。 【その他】 ○「わたしたちの中野区」等を活用して、地域についての調べ学習をする。 ○生き物や天体の様子を観察し、自分なりにノートや新聞にまとめる。
	高学年	<ul style="list-style-type: none"> ★自分で学習を進める力を身に付けましょう。 ★苦手な教科にも粘り強く取り組めるようにしましょう。 ★取り組み時間の目安 50分～60分程度 	<ul style="list-style-type: none"> 【国語】 ○偏（へん）や旁（つくり）を意識し、字形に気を付けて漢字練習に取り組む。 ○事実と感想、意見を区別して、日記や作文に取り組む。 【算数】 ○確実に解けるよう計算問題に取り組んだり、いろいろな解き方で問題を解いたりする。 ○自分で文章問題を作ったり、自分の考えを図や言葉で説明したりする。 【その他】 ○新聞やニュースから、興味のあることを見つけて意見文を書く。 ○歴史上の人物や時代背景について、調べたりまとめたりする。
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ★部活動との両立など時間を上手に使って計画的に学習する習慣をつけましょう。 ★自主的に学習する力を身に付けることが将来の夢につながることを意識させましょう。 ★取り組み時間の目安 2時間～3時間程度 	<ul style="list-style-type: none"> 【国語】 ○偏（へん）や旁（つくり）を意識し、字形に気を付けて漢字練習に取り組む。 ○教科書の本文を読み、構成要素に沿って直す。 【数学】 ○教科書の問題を何度も解き、計算の仕方や流れを理解する。 ○公式や図形の性質などを確実に覚える。 【その他】 ○授業で学習した英文を声に出して何度も読む。 ○ラジオやテレビの語学番組を活用するなどして、英語を聞き取る力を付ける。 ○学校で学習したノートを自分で再度まとめ直す。 	



とうきょうの教育

第110号
.....
小学校版
平成29年1月

東京都教育委員会 「とうきょうの教育」は、東京都教育委員会（教育庁）のホームページでも読むことができます。
ホームページ <http://www.kyoiku.metro.tokyo.jp/>

東京都教育委員会（教育庁）では、都民のみなさまからの提言やご意見・ご要望をメールで受け付けておりますので、お寄せください。



家庭で子供たちとどのくらいの 会話をしていますか？

平成28年度「全国学力・学習状況調査」の際に行われた児童・生徒質問紙調査の結果から、子供の学力向上や基本的生活習慣の定着には、学校だけではなく、家庭での取組も重要であることが分かりました。

学力向上のためには、
主体的・対話的な学習活動を通して
考えを深め、広げることが大切です

自分から進んでものごとに取り組んだり、仲間と話し合いをする中で自分の考えを深め、広げたりすることが大切です。

「家の人と学校の出来事について話をしている」
子供ほど正答率が高い傾向にあります

学校と家庭が互いの教育について理解を深め合い、一体となった取組を進めていくことが大切です。

▼「家の人と学校の出来事について話をしますか」

家庭での会話	平均正答率	
	国語B	算数B
している	63.0%	52.0%
どちらかといえばしている	59.5%	49.6%
あまりしていない	54.4%	46.4%
全くしていない	43.4%	37.7%

(平成28年度全国学力・学習状況調査
東京都公立学校実施分より)

家庭での会話の多い児童ほど正答率が高い傾向にある。



家庭で子供と話す時間を大切にしましょう

子供が携帯電話やスマートフォンを使い過ぎると、家庭での会話の時間が少なくなります。子供と顔と顔を合わせて「今日、学校でどんなことがあったの?」と話ができる時間を作ることが大切です。

▼「普段（月～金曜日）1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか」

使用時間	平均正答率	
	国語B	算数B
30分より少ない	64.1%	54.1%
4時間以上	45.5%	36.5%

(平成28年度全国学力・学習状況調査
東京都公立学校実施分より)

携帯電話やスマートフォンの使用時間が短いほど、正答率が高い傾向にある。

※B問題は主に基礎的な知識・技能の「活用」に関する問題

問合せ先

指導部義務教育指導課

電話 03 (5320) 6841

ファクシミリ 03 (5388) 1733

目次

家庭で子供たちとどのくらいの会話をしていますか?.....	1
グローバル化に対応した東京都の英語教育.....	2・3
都立多摩図書館が移転オープンします.....	4
家族全員が自転車を安全に利用できるよう取り組みましょ.....	4
話してみませんか? あなたの心配.....	4
教育委員会の動き.....	4
インフルエンザを予防しましょ.....	4

この印刷物には、視覚に障害のある方への情報提供の手段として、音声コードを添付しています。
こちらの音声コードにより、活字文書読上げ装置を使って、内容を聞くことができます。

